

かがやく明日のために

With You



長野市男女共同参画情報紙「With You」は、男女共同参画社会づくりに向け、年に3回、市民編集委員が様々な視点から情報を発信しています。今回は、平成30年度優良事業者賞受賞株式会社JBN（インターネット関連サービス業）を取材しました。

《優良事業者選定理由》
●女性が取締役および制作部長に登用され、女性社員の励みと目標になっている。
●会社創業時から女性スタッフが多く携わっており、社風として「男だから」「女だから」という意識が全くなく、社員にも当たり前のようにならぬ男女共同参画意識が根付いている。

平成30年度 長野市男女共同参画優良事業者「紹介」 株式会社JBN様 受賞

長野市では男女が共に能力を発揮しやすい職場環境づくりの観点から、働く人がそれぞれの状況に応じて多様な働き方が可能であるなど、職場における男女共同参画の取り組みを積極的に進めている市内の事業者(従業員300人以下)を毎年表彰しています。平成30年度優良事業者賞を受賞した株式会社JBN 室賀英二代表取締役社長に加藤市長から賞状と副賞の長野市男女共同参画シンボルマーク入りの盾が授与されました。



平成30年度「優良事業者表彰式」



株式会社JBN

「女性が活躍できる時代」と背中押され



宮澤春美さん

「働きながら子育てをしていく。社内にロールモデルがいなかったため、ゼロからやってきました」と語る常務取締役の宮澤春美さん。宮澤さんは大手通信会社に勤務、専業主婦期間を経て、30代前半からパートタイムで働き始めました。

宮澤：最初は午前10時から午後3時まで。その後、子供の成長に合わせて勤務時間を朝夕調整し仕事を続けました。当時は、ワーク・ライフ・バランスの「ライフ」を大切にしていました。前職のキャリアを買われて数年後には正社員に登用され、その後上司から「新しい部署の担当役員に」と話がありました。宮澤：役員の話があったとき不安はありましたが「挑戦したい」と思いました。義父母は「女性が活躍できる時代。何でも協力するからチャンスがあるなら是非やってみよう」と。実父母は古風な考えだったので「女性は家庭が一番だ」と反対でした。今は、父が出張の送迎をしてくれたりするので認めてくれたと思っています(笑)。

働き続けられる道を今の世代に



宮坂美樹さん

結婚前は派遣社員として携帯

宮坂：独身のころは仕事で悩むことも人並みにありましたが(笑)、今は帰れば子供の事や家事に追われて仕事の事を考えられない。逆にバランスが良いのかなと思います。宮澤：この先、宮坂さんが彼女たちを引っ張っていったらと思います。

宮澤：責任が重くなりました。仕事をやる上で宮澤さんの存在が大きく、働く女性のお手本となっています。家の事は夫と協力してこなしています。夫がお迎えや洗濯などを担当しています。それぞれの実家が車で十分のところがあるので、助けてもらうことも多々あり、みんなで分担して子育てをしています。宮澤：試行錯誤の連続でしたが、女性が働き続けられる道筋をたてられたと思います。社内にはタフな女性が宮坂さんを含めて大勢います。

サイト制作会社などいくつかの職業を経験した宮坂さん。出産後は、実家の仕事を手伝いながら子育てをしていましたが、下の子が保育園に入る時に週2日のパートタイムから働き始めました。数年後、家庭と子育て、さらに会社側のタイミンが合ったときに「正社員に」と話がありました。——正社員になって変化は？



フリーランスの仲間たちも集うJBNの社内

プロジェクトはサッカー型で

——育児休暇中の社員のカバーをどのようにしていますか？
宮澤：その人しか分からないという仕事を極力なくしています。データはクラウドで共有しています。

現在、効率化と業務を属人化させないために、テンプレートなどの取り組みをしています。
——仕事で「女性」「男性」の違いはありますか？
宮澤：クリエイティブな点で男女は関係ない。現在社員は24名で男女半々。採用時に性別で区別したことはありません。若手、ベテラン、男性も女性も個性があって、誰に遠慮することなく自由にアイデアが出ます。
——それぞれの個性を活かすという点ですか？
宮澤：スポーツにたとえると「サッカー」です。自分のポジションはあるけど全体を見て動く。個性を最大限活かしつつ個人プレーにならないようにしています。

仕事と私生活を語る JBN男性社員の鼎談

- 制作ユニットリーダー 阿部 寛樹さん 31歳 子供は2歳
- 運用サポートユニットユニットリーダー 石坂 賢二さん 38歳 子供は小学生2人
- 制作ユニット エンジニア 荒井 亮さん 42歳 子供は小学生

——会社のスケジュールに、私的な予定も書き入れているそうですね。
石坂：「学校の面談」とか「〇〇地区広報委員会」とか入れています。仕事にプライベートも溶け込んでいるイメージ。娘が保育園の数年間は、誕生日に必ず家族旅行に行きました。「明日〇〇へ行ってきます！」って皆に伝えて。

荒井：今だけなので、子供も大事にしたいんです。小学校の参観に行きますが、子供が友達から「〇〇ちゃんのお父さんって、何してるの？」って言われた(笑)。

阿部：うちは保育参観に夫婦で行きます。パパも結構いますよ。休む側からすると、日時が分かっていることなので段取りしてチームの仲間(「仕事か」)という状況だから、ここをお願いと伝えます。連携が生まれることも大事なことです。

石坂：深夜まで残業していたころ



左から石坂さん、荒井さん、阿部さん

と、今とでは、皆の顔が違います。私生活でちゃんと家族と関わっていないとストレスが溜まるから。私生活が充実すると心が満たされて「仕事もがんばろう！」って。その好循環が顔に出ます。

荒井：私は5月に入社したばかり。フリーランスのときは子供の行事に参加したり、習い事の送り迎えをしていました。入社時、「子供のための時間をとりたい」と伝えたら当たり前のように認めてもらえて。

私は、出産に立ち会って、自分自身より大切なものが今生まれたんだ。と人生が変わったんです。子供の時間は大切で、成長する姿を見逃したくないです。
——女性が働きやすい職場は男性

も働きやすいと実感していますか？
石坂：そもそも男、女での区別という考えがあまりなく、それぞれの能力や事情を考慮した働き方を尊重してくれませんか。「時間がなくてどうやって仕事を組み立てるか」という壁は、しょっちゅう打ち当たりますが、そこに改善や工夫が生まれるのだと思います。会社は、それを制度や声掛け等でバックアップしてくれます。

阿部：共有「がひとつのキーワード。メールやチャットのような気軽なものを含めてコミュニケーションを大事にすることで、仕事がいやしくなりました。

石坂：様々な視点を持って、お客様の事業に貢献していくのが仕事です。自分で見えていないものをそれぞれの立場や能力で見えていくことが大切。女性ならではの視点に気づかされることも多いです。

——ところで、子育てが一段落したあとの家庭参画は？
阿部：家事はやるかな。習慣になっますからね。

石坂：育児・家事を毎日のルーチンでやっているの、これからは続けると思います。
荒井：全般的に今もやっています。食器洗い、ゴミ捨て、ごはんをつくることも。将来もやりますよ、必要なことだから。

お問い合わせ 長野市男女共同参画センター
〒380-0814 長野市大字鶴賀西鶴賀町1481-1 Eメール/ danjo-c@city.nagano.lg.jp
☎026-237-8303 https://www.city.nagano.nagano.jp/

国際ソープチミスト長野一みず様より、男女共同参画啓発事業のため、
●アルミイーゼル 2個
●プロジェクタースタンド 1台
●パープルリボンプロジェクト用ツリー 一式
を寄贈していただきました。